

■秋播きヘアリーベッチのは種について

南丹農業改良普及センター

1 は種時期

秋季に発芽させて冬を越し、翌春に急激に生長させてから土にすき込みます。冬になる前に一定の大きさに生育させ、越冬させることが重要です。

※ 9月～11月（10月中下旬が最適期）

※※ ヘアリーベッチは4月以降の気温上昇に伴い、急激に大きくなりますが、ヘアリーベッチはすきこみ後、土中で十分分解するのに2週間程度の時間を要します。このため、4月末に田植えをされる地域では、10月種きでは十分な生育量を得ることは困難です。

2 品種・播種量

ハングビローサ（雪次郎）、マッサ（藤えもん）

3～5kg／10a

3 排水対策

稲刈り後や黒大豆枝豆収穫後に繁茂した雑草を抑えるため、また、は種したヘアリーベッチの発芽を促すため、は種前にはほ場を耕うんします。

ヘアリーベッチは湿害に非常に弱いため、5m程度の間隔で排水溝を設置します。排水溝はほ場の排水性に応じて間隔を加減し、水はけの悪いほ場では間隔をさらに狭めるようにしてください。



●排水溝は必ず設置する

4 は種方法

ヘアリーベッチの種子は散粒機を用いて散布します。

は種後はトラクターのロータリーを下ろして、動力は切り、ロータリーを引きずるようにして、種子に軽く覆土、鎮圧をします。



●は種後の覆土、鎮圧は必須

■ヘアリーベッチの生育特性

マメ科ソラマメ属（ナヨクサフジ）の越年性（秋播き）または一年性緑肥作物

原産地：ヨーロッパから西アジア、地中海沿岸地域

生育適温：10～25℃で、30℃以上になると生育は著しく悪くなる。

耐寒性、耐雪性が高く、冬期も少しずつ生育する。

pH4.9～8.2と適応範囲は広いが、極端な酸性土壌や排水不良ほ場では生育は著しく不良となる。